

Nara University of Education

# 奈良教育大学

Graduate School of Education

## 大学院教育学研究科

専門職学位課程 (教職大学院)

・教職開発専攻

修士課程

・伝統文化教育・国際理解教育専攻  
伝統文化(書道を含む)教育・国際理解教育専修



大学院案内

# 2026



## CONTENTS

| 専門職学位課程(教職大学院)       | 修士課程 | 専門職学位課程 (教職大学院)                | 修士課程 |
|----------------------|------|--------------------------------|------|
| 教育学研究科の目的            | 3    | 目的                             | 14   |
| 教育学研究科の課程・入学定員・学位の種別 | 3    | 3 ポリシー                         | 14   |
| 奨学金制度                | 4    | 奈良教育大学 教職大学院の特色                | 15   |
| 奨学金返還免除について          | 4    | コースの概要                         | 15   |
| 長期履修学生制度免除制度         | 4    | 科目の履修方法と修了要件・学位                | 15   |
| 入学科・授業料免除制度          | 4    | 科目の履修方法と修了要件・学位                | 15   |
| 学生寮について              | 4    | 開講科目一覧                         | 16   |
|                      |      | 取得できる教員免許状・各種制度                | 16   |
|                      |      | 現職教員が学びやすい「奈良教育大学教職大学院」        | 17   |
|                      |      | 教員採用試験合格者に対する特例                | 17   |
|                      |      | 奈良県公立学校教員を目指す方へ                | 17   |
|                      |      | 専門職学位課程 大学院生からのメッセージ           | 17   |
|                      |      | 充実した就職支援                       | 17   |
|                      |      | 専任教員の研究分野                      | 17   |
|                      |      |                                |      |
|                      |      | 奈良教育大学<br>ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言 | 19   |



奈良教育大学長  
宮下 俊也

## 格調高く、未来の教育を創造する大学院へ

“大学院”。その語には、学問に挑み、未来を果敢に切り拓いていく機関という、崇高な響きがあります。  
“教育学研究科”。それは、教育を学問として捉え、研究する場であることを意味します。教育に関わる  
様々な課題解決に挑戦し、その結果を新たな知見として論理的に提案することを求めています。これは、  
院生一人一人が教育の未来を描き、「私はこのように教育を発展させたい」という主張をすることです。

奈良教育大学大学院教育学研究科の目的として、「広く教育関係諸科学を研究し、教育実践に関する科  
学的研究を深めることによって、豊かな人間性と高度の専門的教養を備え、教育の理論と実践に関する優  
れた能力を有する教員及び教育者を養成する」ことを掲げています。それは、教育大学の教育学研究科と  
して、院生には研究者であるとともに、教育に関わる実践者として高度な力量を身に付けることを求めて  
いるものです。ですから、研究の対象は「教育」であり、教育に携わる「自分」にも向けられるはずです。

本学の大学院には、「専門職学位課程(教職大学院)」と「修士課程」の二つがあります。1983年(昭和  
58年)に大学院として初めて修士課程を設置し、2008年(平成20年)には、我が国の教職大学院制度の  
発足に合わせていち早く専門職学位課程を新設しました。それ以後、数回の組織改編を経て、令和4年度  
からは、それまでの実績と本学ならではの特色をさらに生かし、新たな二課程として加速することとい  
しました。

専門職学位課程(教職大学院)は、学校や学級の経営、生徒指導・学校カウンセリング・幼儿教育・イ  
ンクルーシブ教育、教科等の指導を通して、「持続可能な社会づくりの担い手」を育成することのできる高  
度な専門性と実践力を備えた教員を養成します。また、ICTの活用など、喫緊の教育課題に対応できる高  
度な力量も培います。

修士課程は、本学が数々の文化遺産に囲まれ、ユネスコスクールであることにも即し、伝統文化やその  
教育、国際理解教育を持続的に発展させ、多文化共生社会の実現やSDGsの達成に貢献できる人材を育成  
します。留学生も受け入れ、研究を通じた国際交流の場としても期待しています。

両課程の院生には、研究の途上や成果発表会などにおける課程間交流や、学部生をも巻き込んだ対話の  
機会を積極的に企て、教育や文化を研究することの楽しさを共有してほしいと思います。また、現職教員  
院生や社会人としての経験を持つ院生は、学部から進学してきた「同級生」に対して、仕事の中で経験し  
た感動を熱く語ってください。

格調高く、未来の教育を創造していく大学院によって、奈良教育大学全体がさらに美しい響きを奏でら  
れるよう、すべての大学院生にそのリーダーシップを担っていただきたいと心より願います。

### 教育学研究科の目的

広く教育関係諸科学を研究し、教育実践に関する科学的研究を深めることによって、豊かな人間性と高度の専門的教養を備え、教育の理  
論と実践に関する優れた能力を有する教員及び教育者を養成します。

### 教育学研究科の課程・入学定員・学位の種別

| 課 程                | 専 攻                 | コース／専修                     | 領 域                             | 入学定員 | 学位の種別         |
|--------------------|---------------------|----------------------------|---------------------------------|------|---------------|
| 専門職学位課程<br>(教職大学院) | 教職開発専攻              | 学校教育<br>マネジメントコース          | 学校組織マネジメント領域                    | 50 名 | 教職修士<br>(専門職) |
|                    |                     |                            | 学級づくり・特別活動マネジメント領域              |      |               |
|                    |                     |                            | ESD マネジメント領域                    |      |               |
|                    |                     |                            | 教育情報化マネジメント領域                   |      |               |
|                    |                     | 教育発達支援コース                  | 生徒指導・学校カウンセリング領域                |      |               |
|                    |                     |                            | 幼年教育領域                          |      |               |
|                    |                     |                            | インクルーシブ教育領域                     |      |               |
|                    |                     | 教科教育コース                    | 言語・社会科学領域<br>(国語、社会科、英語・小学校外国語) |      |               |
|                    |                     |                            | 理数・生活科学領域<br>(算数・数学、理科、技術、家庭科)  |      |               |
|                    |                     |                            | 芸術・保健体育領域<br>(音楽、美術、書道、保健体育)    |      |               |
| 修士課程               | 伝統文化教育・<br>国際理解教育専攻 | 伝統文化（書道を含む）<br>教育・国際理解教育専修 | 伝統文化教育領域<br>国際理解教育領域            | 20 名 | 修士<br>(教育学)   |

## 奨学金制度

人物・学業ともに優秀で、かつ経済的に修学が困難と認められる学生には、学費補助の一環として次のような奨学金制度がありますのでご利用ください。

- 日本学生支援機構第1種奨学金（貸与制・無利子） 1ヶ月（5万円、8万8千円）
  - 日本学生支援機構第2種奨学金（貸与制・有利子） 1ヶ月（5万円、8万円、10万円、13万円、15万円）から選択
- また、日本学生支援機構の特に優れた業績による奨学金返還免除制度や、その他、各種法人からの奨学金制度もあります。

## 奨学金返還免除について

教職大学院に在学中に教員採用試験に合格し、大学院修了の翌年度4月から正規教員として採用された場合は、大学院在学中に受けとった日本学生支援機構第1種奨学金（無利子）の返還が全額免除されます。

**大学生の時に教員採用試験に合格し、採用猶予制度等により教職大学院に進学した場合も、返還免除の対象**となります。また、特例措置（教育方法の特例）により、1年目は教職大学院で学び、2年目には教員として働きながら大学院に通い修了する予定の場合も、2年目に受け取った奨学金も返還免除の対象となります。

お金の  
心配なく勉強  
できるゆ!!



## 長期履修学生制度

この制度は、①職業を有している、②家事、出産、育児、介護等を行う必要がある、③障害がある等の理由により通常の修業年限を超えて最長4年として履修することを認める制度です。この制度適用者の授業料は、原則として、3年又は4年の長期履修であっても2年分となります。

## 入学科・授業料免除制度

入学科については、入学前1年以内において入学者の学資を主として負担している者が死亡したり、入学者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けて納付が困難な場合、又は経済的事情により入学科の納付が困難であり、さらに人物・学業ともに優秀と認められる学生に対して入学科の全額または半額を免除する制度があります。

授業料については、経済的事情により授業料の納付が困難であり、さらに人物・学業ともに優秀と認められる学生に対して、授業料の全額、半額又は一部の額を免除する制度があります。

◎令和6年度には、大学院在学生の18%が授業料免除を受けています。

## 学生寮について

自宅通学が困難な学生のために、国際学生宿舍（日本人学生と外国人留学生の混在）と橘宿舍（女子）があります。

|           | 国際学生宿舍            | 橘宿舍                       |
|-----------|-------------------|---------------------------|
| 定員        | 男子69名<br>女子30名    | 女子64名                     |
| 居室数       | 男子69室<br>女子30室    | 女子64室                     |
| 居室定員      | 1名（個室）            |                           |
| 宿舍料（月額）   | 4,700円            | 個室A 6,000円<br>個室B 15,000円 |
| 維持管理費（月額） | 5,000円            | 4,700円                    |
| 入居期限      | 2年                |                           |
| 食事        | 寮食は提供していない        |                           |
| その他光熱水費等  | 共同利用部分の経費＋別途個室の経費 |                           |
| 通学時間      | 徒歩10分             | 徒歩3分                      |

（令和7年4月現在）



居室



ラウンジ



洗濯室



補食室

# 専門職学位課程（教職大学院）

## 目的

専門職学位課程（教職大学院）では、高度の専門性が求められる教職を担うための深い学識及び卓越した教育実践能力を培うことを目的とし、『持続可能な社会づくりの担い手』を育成できる高度な専門性と実践力を兼ね備えた教員を養成します。

## 3 ポリシー

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

学士課程や教育現場、社会等で身に付けた教員としての基礎的な資質・能力に加え、取り組みたい課題を明確かつ具体的に持ち、「持続可能な社会づくりの担い手」を育成する教員として学び続ける意欲を持つ人を求めます。

#### 学部・大学院出身者

研究を通して、以下のいずれかを身に付けたという目的を持つ人を求めます。

- 学級経営、ESD（持続可能な開発のための教育）、ICTに関わる高度な実践力
- 生徒指導、学校カウンセリング、幼年教育、インクルーシブ教育に関わる高度な実践力
- 教科等指導に関わる高度な実践力

#### 現職教員

研究を通して、以下のいずれかを身に付け、学校や地域、教育行政において指導的役割を果たしたいという目的を持つ人を求めます。

- 学校経営、学級経営、ESD（持続可能な開発のための教育）、ICTについて学校全体を牽引することができる高度な実践力
- 生徒指導、学校カウンセリング、幼年教育、インクルーシブ教育について学校（保育所、こども園を含む）全体を牽引することができる高度な実践力
- 教科等研究を推進することができる高度な実践力

### 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

以下の趣旨に基づいて教育課程を体系的に編成し実施します。

#### （1）教育課程の編成の方針

1. 「専攻共通科目」（共通五領域）では、学校教育の基本となる課題について理論と実践の往還を通して学び、それに対応できる実践力を育みます。その中で、「奈良教育大学の3つの柱」の一つである「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」に即し、『ESD-SDGsの理論と実践』を配置します。
2. 「実践科目」として「実習科目」と「演習科目」を配置します。「実習科目」では、授業・指導補助・校務等の経験を通して課題を探究し解決できる高度な実践力を育みます。「演習科目」では、これからの時代を見据えた新しい教育に対応できる実践力を育みます。
3. 「研究科目」では、自らの課題を解決する研究力と、理論と実践とを架橋できる力を育みます。また、研究の成果・在学中の学び・身に付けた力量を学位研究報告書としてまとめ、学び続ける態度を育みます。
4. 「専門科目」として「学校教育マネジメント科目」「教育発達支援科目」「教科教育科目」を配置し、各コースに対応する実践力を育みます。

#### （2）教育課程における教育・学修方法に関する方針

本学教員は、学校現場における喫緊の教育課題への対応力、及び「持続可能な社会づくりの担い手」を育成できる高度な専門性と実践力を兼ね備えた教員としての資質・能力についての観点や内容を共有し、協働する体制で教育を進めます。また、学生それぞれのこれまでの経験・知識を活かし、互いに学び合う学修環境、支援体制の整備に努めます。

#### （3）学修成果の評価の方針

全授業科目において、本専攻の理念・目的及びカリキュラム・フレームワークに即した到達目標を定め、到達目標並びに評価の方法をシラバスによって学生と教員で共有し、成績評価を的確かつ厳正に行います。また、その成績評価結果や学生による授業評価結果を点検し、カリキュラムの評価・改善を図ることで教育の質の保証に努めます。

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

「持続可能な社会づくりの担い手」を育成する教員として、修了までに以下が認められるとともに、所定の単位を修得し、学位研究報告書の審査及び最終試験に合格した学生に学位「教職修士（専門職）」を授与します。

1. 教育課題を探究し解決できる研究力と高度な実践力を有していること。
2. 自らが掲げた「身に付けたい資質・能力」を獲得していること。
3. 専門的知見と実践力を生かし、これからの新しい学校教育を牽引できる高度な実践力を有していること。

## 奈良教育大学 教職大学院の特色

- 教員として普遍的に求められる力量に加え、「持続可能な社会の創り手」を育成する実践力(ESDについての理論的研究、及びそれに基づくESDの高度な実践力の育成)やICTを活用できる高度な教育力など喫緊の課題に対応できる高度な力量を育成します。
- 教育課題を追求する研究力と研究成果に裏付けられた高度な教育実践力を育成します。
- 入学直後の履修指導を行い、全院生に「身に付けたい資質・能力」を明確化させ、それを実現させるための履修モデルをアドバイスしていきます。
- 実務家教員と研究者教員、教科専門教員と教科教育教員などで構成するチームティーチングによる多彩な指導体制を提供します。
- 連携協力校において、『課題探求実習』（1回生次）と『課題解決実習』（2回生次）の配置による、課題の探求から課題の解決を行う検証と実践的力量を形成します。
- 奈良県教育委員会との連携事業に参画させるなど、「奈良教育大学の3つの柱」の一つである「養成と研修の融合」を引き続き図っていきます。

## コースの概要

「求める教師像」を実現させるための教育課程の括りとして、次の3コースを設けています。

## 学校教育マネジメントコース

### 学べる領域

- 学校組織マネジメント
- 学級づくり・特別活動マネジメント
- ESD マネジメント
- 教育情報化マネジメント

### 在学生の声

学校教育  
マネジメントコース  
学級づくり・  
特別活動マネジメント領域  
**應矢 恵舞さん**  
(令和7年3月修了)  
同志社女子大学卒業



授業やゼミナール活動、学校実習で出会った子どもたちとの関わりをきっかけに関心が深まり、現在は、困難に直面した際にネガティブな感情に圧倒されることや、過度に自分を責めてしまう状態を緩和する方法である「セルフ・コンパッション」に着目して研究を進めています。また、授業時間外では、小学校の学習支援員として働いたり、子どもたちから電話相談を受けるボランティア活動に参加しています。大学院では、専門知識や経験豊富な先生方、多様な研究テーマを掲げて学びに来ている仲間たちから新しい視点を日々得ることができます。実際に子どもたちと関わりながら学んだことをアウトプットできるので充実した時間を過ごせています。

## 教育発達支援コース

### 学べる領域

- 生徒指導・学校カウンセリング
- 幼年教育
- インクルーシブ教育

### 在学生の声

教育発達支援コース  
生徒指導・  
学校カウンセリング領域  
**疋田 浩也さん**  
(令和7年3月修了)  
立命館大学卒業



大学院の授業では、自分の興味に合わせて専門的な知識を深めることができます。また、他の大学院生や現職の先生方と関わる中で、教員としての熱い思いや実際の経験を聞く機会も多く、勉強だけでは得られない学びがたくさんあります。さらに、学校実習や非常勤講師として現場に行くこともあり、そこで感じた疑問や悩みを授業や仲間との話し合いでじっくり解決できるのも魅力です。今取り組んでいる研究テーマは、子どもたちが応援し合う中で、応援する側の心にどのような影響があるのかを探ることです。この研究を通して、子どもたちがお互いに応援し合えるような学級づくりの大切さを明らかにしたいと考えています。

## 教科教育コース

### 学べる領域

- 言語・社会科学  
(国語、社会科、英語・小学校外国語)
- 理数・生活科学  
(算数・数学、理科、技術、家庭科)
- 芸術・保健体育  
(音楽、美術、書道、保健体育)

### 在学生の声

教科教育コース  
理数・生活科学領域  
(算数・数学)  
**有川 倅貴さん**  
(院2回生)  
奈良教育大学卒業



大学院の入学式では、学長が「総合知」についてのお話をされていました。まさに、大学院は総合的に学び成長できる場だと考えています。普段は研究室で「数学への知的好奇心を高めるためのICT活用の研究」を行っています。自らの専門性を高めるために論文や書籍を読んで示唆を得ていますが、意外にも研究の種やアイデアが生まれるのは、授業中での教授のお話やディスカッションでのことが多いです。様々な専門性に長けている院生や、経験豊富な現職教員との話し合いは、自らの研究や教育観への刺激となります。このように大学院は広く深く楽しく学べて、様々な知見や人間的な幅と深みを与えてくれる環境だと感じています。

## 科目の履修方法と修了要件・学位

教育課程 46 単位  
学位研究報告書の審査及び最終試験

専門職学位課程修了  
教職修士（専門職）の学位授与



## 開講科目一覧

教職大学院のカリキュラムは次のとおりです。\*

修了要件は、専攻共通科目（共通5領域）16単位以上、実践科目14単位以上、研究科目4単位、専門科目12単位以上の計46単位以上の修得です。

※授業の詳細はシラバスからご覧いただけます。シラバスは右のQRコードからアクセスしてください。



## 専攻共通科目（共通5領域）

| 科目区分               | 開講科目                                           |
|--------------------|------------------------------------------------|
| 教育課程の編成及び実施に関する領域  | ESD-SDGsの理論と実践<br>教育課程の開発と改善<br>特別支援教育の教育課程論   |
| 教科等の実践的な指導方法に関する領域 | 指導と評価の一体化<br>道德教育の理論と実践<br>ユニバーサルな授業デザイン       |
| 生徒指導及び教育相談に関する領域   | 生徒指導と子どもの心<br>発達理論と教育実践<br>発達障害児の理解と支援         |
| 学級経営及び学校経営に関する領域   | 学級経営の基礎・基本<br>学校組織とアカウンタビリティ<br>特別支援教育と学校・学級経営 |
| 学校教育と教員の在り方に関する領域  | 教師の発達とキャリア教育<br>学校危機管理論<br>インクルーシブ教育原論         |

## 実践科目

| 科目区分 | 開講科目                                                                                                 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 実習科目 | 課題探求実習<br>課題解決実習A<br>課題解決実習B（特別支援教育）<br>へき地学校実習                                                      |
| 演習科目 | 遠隔教育実践演習<br>デジタル教材作成演習<br>学習の基盤力向上のためのICT活用演習<br>STEAM教育演習<br>授業力応用演習<br>授業力基礎演習<br>特別支援教育アセスメント事例研究 |

## 研究科目

| 科目区分 | 開講科目           |
|------|----------------|
| 研究科目 | 課題研究Ⅰ<br>課題研究Ⅱ |

## 実習科目「課題探求実習」「課題解決実習A・B」について



山内 雅雄 准教授

教職大学院の実習は、免許取得のための学部の「教育実習」とは趣旨内容が異なるため、「学校実習」と称され、「理論と実践の融合」を強く意識した教員養成教育の重要な科目です。本学では、1年次に「課題探求実習」、2年次に「課題解決実習」として行っています。

基本的には本学と連携協力関係にある国公立学校において、年間\*を通じて実習します。この間、授業実習（観察や指導補助を含む）と様々な実務経験を含めた校務経験実習を行います。この二種類の実習を通して、自身の研究課題に関する探求と解決を目指すとともに、実習校の研究主題等にも寄与することを目指しています。このことから実習校を「連携協力校」と称し、互いにWin-Winの関係を築いてきています。

\*概ね5月～12月の間に週1回行う週一実習と、9月または10月に四週連続で行う四週連続実習を組み合わせ、合計5単位×2か年の必修

専門科目

| 科目区分                 | 開講科目                 |
|----------------------|----------------------|
| 学校教育<br>マネジメント<br>科目 | カリキュラム・マネジメント実践論     |
|                      | 教師の成長と授業研究           |
|                      | 学校経営の理論と実践           |
|                      | 地域とつくる学校             |
|                      | 学級・学校づくりと特別活動        |
|                      | 学級経営実践論              |
|                      | 学級集団づくりの実践分析研究       |
|                      | ESD と総合的な学習の時間特講     |
|                      | ESD カリキュラムマネジメント     |
|                      | ESD と地域創生            |
|                      | SDGs フィールドワーク        |
|                      | ESD と郷土教育・総合学習       |
|                      | ESD としての教科教育実践       |
|                      | 学校教育の情報化特論           |
|                      | 教育のためのデータサイエンス       |
|                      | 授業支援ツールを活用した授業設計     |
|                      |                      |
| 教育発達<br>支援科目         | 学校教育と心理学             |
|                      | 子どもの「学び」と心理学         |
|                      | 教育と臨床                |
|                      | 子どもの発達の理解と支援         |
|                      | 学校臨床の理論と実践           |
|                      | 学級集団と心理学             |
|                      | 教育支援と子どもの権利          |
|                      | 学級集団のアクションリサーチ       |
|                      | 子どもの権利を踏まえた教育支援の実践   |
|                      | 保育・幼児教育の内容論と実践の展開    |
|                      | 幼小連携・接続の理論と実践の展開     |
|                      | 幼年教育の理論と実践           |
|                      | 魅力ある幼稚園・保育所・こども園等の運営 |
|                      | 幼年心理の理論と保育           |
|                      | 幼児理解を深めるための実践研究      |
|                      | 子ども家庭福祉の理論と実践        |
|                      | 子育て支援の理論と実践          |
|                      | 保育・幼児教育の質の確保と向上      |
|                      | 保育・幼児教育の質的研究         |
|                      | LD 児・ADHD 児の理解と支援    |
|                      | 特別支援教育の生理・病理         |
|                      | 重度障害児の理解と支援          |
|                      | 特別支援教育コーディネーター論      |
|                      | 特別支援教育のシステム論         |
|                      | 特別支援教育の心理学           |
|                      | 自閉症児の理解と支援           |
| 教科教育科目               | 教科の原理と授業づくり（国語）      |
|                      | ICT を含む授業実践（国語）      |
|                      | 教科内容と教材開発（古典文学）Ⅰ     |
|                      | 教科内容と教材開発（古典文学）Ⅱ     |
|                      | 教科内容と教材開発（近代文学）Ⅰ     |
|                      | 教科内容と教材開発（近代文学）Ⅱ     |
|                      | 教科内容と教材開発（語彙・文法）     |
|                      | 教科内容と教材開発（音声言語）      |
|                      | 教科の原理と授業づくり（社会）      |
|                      | ICT を含む授業実践（社会）      |
|                      | 教科内容と教材開発（社会・地理歴史Ⅰ）  |
|                      | 教科内容と教材開発（社会・地理歴史Ⅱ）  |
|                      | 教科内容と教材開発（社会・公民Ⅰ）    |
|                      | 教科内容と教材開発（社会・公民Ⅱ）    |
|                      | 教科の原理と授業づくり（英語）      |
|                      | 教科内容と教材開発            |
|                      | （テキストをスピーキングに活かす）    |
|                      |                      |
|                      |                      |
|                      |                      |

| 科目区分   | 開講科目                                                       |
|--------|------------------------------------------------------------|
| 教科教育科目 | 教科内容と教材開発                                                  |
|        | （テキストをライティングに活かす）                                          |
|        | 教科内容と教材開発（英文法指導）                                           |
|        | Organizing your classroom talk and assignments effectively |
|        | 教科の原理と授業づくり（小学校外国語）                                        |
|        | ICT を含む授業実践（小学校外国語・英語）                                     |
|        | 教科内容と教材開発（小学校外国語）                                          |
|        | 教科の原理と授業づくり（算数・数学）                                         |
|        | ICT を含む授業実践（算数・数学）                                         |
|        | 教科内容と教材開発（解析）                                              |
|        | 教科内容と教材開発（確率・統計）                                           |
|        | 教科内容と教材開発（コンピュータ・応用数学）                                     |
|        | 教科内容と教材開発（代数）                                              |
|        | 教科内容と教材開発（幾何）                                              |
|        | 教科の原理と授業づくり（理科）                                            |
|        | ICT を含む授業実践（理科）                                            |
|        | 教科内容と教材開発（理科：物理分野）                                         |
|        | 教科内容と教材開発（理科：化学分野）                                         |
|        | 教科内容と教材開発（理科：生物分野）                                         |
|        | 教科内容と教材開発（理科：地学分野）                                         |
|        | 教科の原理と授業づくり（技術）                                            |
|        | ICT を含む授業実践（技術）                                            |
|        | 教科内容と教材開発（技術：機械分野）                                         |
|        | 教科内容と教材開発（技術：電気情報分野）                                       |
|        | 教科内容と教材開発（技術：栽培分野）                                         |
|        | 教科の原理と授業づくり（家庭科）                                           |
|        | ICT を含む授業実践（家庭科）                                           |
|        | 教科内容と教材開発（生活デザイン領域）                                        |
|        | 教科内容と教材開発（生活科学基礎実験領域）                                      |
|        | 教科内容と教材開発（健康生活領域）                                          |
|        | 教科の原理と授業づくり（音楽）                                            |
|        | ICT を含む授業実践（音楽）                                            |
|        | 教科内容と教材開発（鑑賞・創作）                                           |
|        | 教科内容と教材開発（表現領域・ピアノ）                                        |
|        | 教科内容と教材開発（表現領域・声楽）                                         |
|        | 教科の原理と授業づくり（図画工作・美術）                                       |
|        | ICT を含む授業実践（図画工作・美術）                                       |
|        | 教科内容と教材開発                                                  |
|        | 〈絵画分野・絵に表すー平面的な造形表現〉                                       |
|        | 教科内容と教材開発                                                  |
|        | 〈工芸分野・デザイン分野・工作に表すー用途のある造形表現〉                              |
|        | 教科内容と教材開発                                                  |
|        | 〈彫刻分野・立体に表す・造形遊びー立体的な造形表現〉                                 |
|        | 教科の原理と授業づくり（書道）                                            |
|        | ICT を含む授業実践（書道）                                            |
|        | 教科内容と教材開発（漢字書法）                                            |
|        | 教科内容と教材開発（書道史）                                             |
|        | 教科内容と教材開発（書道作品鑑賞）                                          |
|        | 教科の原理と授業づくり（保健体育）                                          |
|        | ICT を含む授業実践（保健体育）                                          |
|        | 教科内容と教材開発（運動領域）                                            |
|        | 教科内容と教材開発（体育理論領域）                                          |
|        | 教科内容と教材開発（保健領域）                                            |

※令和 7 年度時点の開講科目を掲載しています。今後、変更が生じる可能性があります。  
※授業の詳細はシラバスからご覧いただけます。シラバスは右の QR コードからアクセスしてください。



取得できる教員免許状・各種制度

取得できる教員免許状

- 幼稚園教諭専修免許状
  - 小学校教諭専修免許状
  - 中学校教諭専修免許状
  - 高等学校教諭専修免許状
  - 特別支援学校教諭専修免許状
- 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、外国語（英語、ドイツ語、フランス語）、宗教
- 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、外国語（英語、ドイツ語、フランス語）、宗教
- 知的障害者、肢体不自由者、病弱者

※本学教職大学院では、上記の専修免許状を取得することが可能です。**必要な単位を取得すれば複数の専修免許状の取得も可能です。**なお、取得しようとする専修免許状にかかる一種免許状を有する場合に限ります。

各種制度

プログラム(長期在学コース)

小学校教員免許取得プログラム

教員免許状を有していない入学者及び小学校（二種）、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有し修了時に小学校教諭専修免許状の取得を希望する入学者を対象として、「小学校教員免許取得プログラム」を開設します。

| コース種別  | コース内容                                                                    |
|--------|--------------------------------------------------------------------------|
| 3 年コース | 原則として 1 年次に小学校教諭一種免許状取得に必要な授業科目を履修し、2 年次、3 年次において、通常の教職大学院の教育課程を履修します。   |
| 4 年コース | 原則として 1・2 年次に小学校教諭一種免許状取得に必要な授業科目を履修し、3 年次、4 年次において、通常の教職大学院の教育課程を履修します。 |

※修学期間に応じた授業料が必要です。  
※修学期間は、小学校教諭一種免許状の取得に必要な単位数に応じて、3 年或いは 4 年となります（目安としては、幼中高の教諭の普通免許状を取得済みの場合は 3 年、それ以外は 4 年となります。）。

特別支援学校教員免許取得プログラム

小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有している者のうち、特別支援学校教諭一種免許状の取得を希望する入学者を対象として、「特別支援学校教員免許取得プログラム」を開設します。

| コース種別  | コース内容                                                                                                      |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 年コース | 1 年次に特別支援学校教諭一種免許状取得に必要な授業科目を履修した後（ただし、「障害児教育実習（事前・事後指導を含む）」は 2 年次に履修。）、2 年次、3 年次において、通常の教職大学院の教育課程を履修します。 |

※修学期間に応じた授業料が必要です。

小学校教員免許取得プログラム受講者の声

学校教育マネジメントコース 学級づくり・特別活動マネジメント領域 小木曾 玲奈 さん（聖心女子大学卒業）



私の大学院進学理由は、小学校教員免許取得プログラムの存在です。学部時代、私は教員免許を取得せず哲学を専攻していましたが、小学校教諭になる夢を諦めることができませんでした。数ある教員免許取得方法の中で、本大学院進学を選んだのは、これまでの学びを活かしながら、新しい挑戦ができると感じたからです。実際にプログラムを受講すると、学部生や院生、現職の先生方と幅広く交流することができました。その中で新しい価値観や考え方に触れる機会に多く恵まれ、この経験が私にとって大きな学びにもなっています。多くの実践経験を経てから教員免許を取得できるところが、本プログラムの魅力でもあると感じています。

現職教員が学びやすい「奈良教育大学教職大学院」

教育方法の特例措置

- 第1年次は在職校を離れて、昼間の授業等をフルタイムで履修
- 第2年次は在職校に復帰し、勤務しながら授業・指導を受ける

※第2年次の特例措置については、奈良県教育委員会からの大学院等派遣研修による現職教員は、別に定めるところによります。

夜間開講

1・2年次とも夜間等の授業を履修

- 授業・研究指導の夜間開講
- 夏季・冬季休業期間や土日祝日にも開設することがある
- 休業期間中の昼間での集中講座を受講できる

実習科目の履修免除

実習科目については、修了要件46単位のうち、「課題探求実習（5単位）」及び「課題解決実習（5単位）」の履修が必要ですが、教員としての実務の経験を有する者が、入学後に行う口頭試問及びレポート等による審査において、実習科目の到達目標基準に到達していると判断された場合は、「課題探求実習（5単位）」の履修が免除されます。

教員採用試験合格者に対する特例

教員採用試験（※）に合格した後、本学教職大学院を受験する場合、11月募集の一般選抜（教員採用試験合格者特例）で出願してください。

**筆記試験が免除となり、口述試験【実技等を含む】のみで受験できます。**

（※）当該年度の公立学校教員採用候補者選考試験、または国立・私立学校の教員採用試験に合格した者、幼稚園教諭・こども園教諭の合格者を対象とします。公立学校の場合、都道府県は問わず全国の教員採用試験合格者を対象とします。

奈良県公立学校教員を目指す方へ

| 合格ステップ                                                 | 採用猶予制度            |
|--------------------------------------------------------|-------------------|
| 大学院入試 7月募集合格 ▶ 奈良県教員採用試験合格（A参照）                        | 1年（B・C参照）         |
| 奈良県教員採用試験合格 ▶ 大学院入試 11月募集合格<br>（上記「教員採用試験合格者に対する特例」参照） | 2年（B参照）または1年（C参照） |

※奈良県公立学校教員採用候補者選考試験は「奈良県教員採用試験」とします。

(A) 奈良県教員採用試験における加点

奈良県教員採用試験1次試験に合格し、かつ本学教職大学院（7月募集）に合格し、入学手続を完了すれば、**奈良県教員採用試験2次試験において加点を受けられます。**

(B) 奈良県教員採用試験合格者の大学院修業年数について

奈良県教員採用試験合格者が本学教職大学院に進学する場合、名簿記載期間延長による採用猶予制度を用いて大学院で就学します。期間は、1年間（※）もしくは2年間のどちらでも選択できます。（※1年間の場合は、「(C)教育方法の特例」を適用します。）

なお、「(A) 奈良県教員採用試験における加点」を受け、教員採用試験に合格した方は原則、「(C) 教育方法の特例」を適用し、名簿記載期間延長は1年間となります。（詳細は「奈良県教員採用試験」の受験案内を確認してください。）

(C) 教育方法の特例（奈良県教採特例）

奈良県教員採用試験に合格している方のうち希望者に対して、大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例措置を設けています。修業年限2年のうち、第1年次は学業に専念し、通常の形態の授業と担当教員の指導を受けます。第2年次は、教員として採用され、採用校で勤務しながら、担当教員の指導と休業期間中等に授業を受けることができます。奈良県の喫緊の課題に対応する特別なプログラムを開講していますので、奈良県内の教育を深く知り、初任者としての自信を身に付けることができます。

（※採用試験合格後に、奈良県教育委員会において、採用猶予の手続きを行う必要があります。）

【授業料の免除】

2年目の授業料は免除されます。また1年目の授業料を2年目に支払うこともできます。



へき地学校  
実習の様子

専門職学位課程 大学院生からのメッセージ

学部卒業生



教科教育コース  
理数・生活科学領域（算数・数学）  
**入口 明大**さん（院2回生）  
奈良教育大学卒業

私は奈良県教員採用試験に合格し、採用を1年間猶予していたで、本学大学院へ進学しました。ここでは、「大学院へ来て良かった」と思った二つの学びをご紹介します。

一つ目は「世界の広がり」です。大学院では学部時代には経験できなかった高度な専門的授業や、異なる志を持つ学友との活発な議論を通じて、多様な学びの場が広がります。こうした環境に身を置くことで、自分の考えを深め、新たな視点を得ることができました。その積み重ねにより思考は磨かれ、物事を捉える視野が広がり、世界がより立体的に見えるようになりました。私は、そうして養った目が教壇に立ったとき、どれほど豊かな景色を見せてくれるのか、今から楽しみでたまりません。

二つ目は「参加者としての姿勢」です。これまで私は、与えられた課題をこなす学びに慣れていました。しかし、大学院では「教えられる」学びから「議論に参加する」主体的な学びへと深化します。自ら学びたいテーマを明確にし、積極的に学びに参加することで、学びそのものが深く楽しいものへと姿を変えることを実感しました。

大学院で得られる学びは人それぞれですが、皆さんもきっと私とは異なる素晴らしい発見を得るはず。そんな皆さんと「学ぶ喜び」や「変化の瞬間」を共有できる日を、心より楽しみにしています。

現職教員派遣



教育発達支援コース  
インクルーシブ教育領域  
**太田 弘代**さん（院2回生）  
奈良県公立小学校勤務

私は小学校教員として16年、そのうち半分を1年生の担任を務めてきました。コロナ禍以降、低学年の不登校について考えることが増え、子どもの支援について学び直したいと考えました。発達心理学の観点から、6、7歳の子どもの発達段階における発言や行動を観察し、発達要求を満たす教育内容や幼保小の接続期における子どもの内面の変化に焦点を当てています。コロナ禍で十分な経験ができなかった子どもたちが、周囲と関係を築けず不安を抱えている場合、学校教育が発達要求に応える形に変わっていくことが解決の糸口になるのではないかと考えたからです。

大学院で学んだ「みかた」が2つあります。一つ目は「発達の視点から子どもを視る」という「視方」です。「できない」ではなく、「できる」をどう生かすか、ということから子どもを視る力です。二つ目は「相談できる人とつながっていく」という「味方」です。大学院では、様々な分野の先生方が親身に相談に乗ってくださいます。また、通級指導教室や福祉施設、特別支援学級を見学させて頂き、そこで働く方々の子どもへの想いや願いを聞かせて頂きました。これからは、教育という視点だけでなく、福祉や医療とも連携し、幅広い視点から子どもの発達について考えていきたいと思っています。

充実した就職支援

キャリアサポート（100クラブ）について

大学で行われている取組に加え、教職大学院では教員採用試験合格100%を目指して、100クラブという独自の就職支援を行っています。100クラブは課外に教員採用試験対策を行うクラブ活動のような取組で、参加については自由であり、履修登録や単位認定はありません。そのぶん同じ目標をもつ仲間と協力し、大学院担当教員のアドバイスを受けながら継続的に切磋琢磨することができます。個人面接および集団討議や模擬授業、場面指導などの練習を重ね、各都道府県が実施する教員採用試験に対応できるスキルをアップさせます。話し方や視線の置き場など面接の基本動作の練習はもちろんのこと、今日の教育課題をテーマとして面接練習することで、学校で起こる様々な問題や教育時事など、一人一人の視野を広げています。

100クラブを通して教員採用試験対策に留まらない学びを得ることができるでしょう。また、エントリーシートや自己アピール文等、出願に伴って提出する文書等の添削や個人面接の追加指導など、院生個々の要望に基づいて希望に添えるよう、各担当教員が個別の指導も行っています。なお、担当教員は小・中・高の教員経験者で、学校現場の実情や教員採用試験にも精通しています。



〈集団討議の練習風景〉

| 専任教員の研究分野 |               |                  |                |         |                    |                  |  |
|-----------|---------------|------------------|----------------|---------|--------------------|------------------|--|
| 専攻        | コース           | 領域               | 職名             | 氏名      | 研究分野               |                  |  |
| 教職開発専攻    | 学校教育マネジメントコース | 学校組織マネジメント       | 教授             | 赤沢 早人   | カリキュラム・マネジメント      |                  |  |
|           |               |                  | 教授             | 中井 隆司   | 教師教育学・授業研究         |                  |  |
|           |               |                  | 特任教授           | 浅田 重義   | 学習指導・学校経営          |                  |  |
|           |               |                  | 准教授            | 北川 剛司   | 教育評価・教育方法・授業論      |                  |  |
|           |               |                  | 准教授            | 山内 雅雄*  | 学校経営、教師教育、授業研究     |                  |  |
|           |               |                  | 特任准教授          | 阪部 清    | 学校経営               |                  |  |
|           |               |                  | 特任准教授          | 熊谷 啓子   | 学校経営・学習指導          |                  |  |
|           |               |                  | 専任講師           | 小林 昇光   | 学級・学校経営、地域教育経営     |                  |  |
|           |               | 学級づくり・特別活動マネジメント | 教授             | 粕谷 貴志   | 学校心理学              |                  |  |
|           |               |                  | 教授             | 片岡 弘勝** | 地域生涯学習             |                  |  |
|           |               |                  | 准教授            | 粕谷 圭佑   | 教育社会学              |                  |  |
|           |               |                  | 特任准教授          | 深瀬 重雄◇  | 学級経営、学校経営          |                  |  |
|           |               |                  | 特任准教授          | 米谷 幸    | 学級・学校経営            |                  |  |
|           |               | ESD マネジメント       | 教授             | 板橋 孝幸   | 郷土教育、生活科・総合学習、ESD  |                  |  |
|           |               |                  | 准教授            | 及川 幸彦   | ESD、SDGs、環境学、防災教育  |                  |  |
|           |               |                  | 准教授            | 河野 晋也   | ESD、学習科学、社会科教育     |                  |  |
|           |               |                  | 准教授            | 河本 大地   | 地域学習、地理学、へき地教育、ESD |                  |  |
|           |               |                  | 特任准教授          | 大西 浩明◇  | ESD、SDGs           |                  |  |
|           |               | 教育情報化マネジメント      | 教授             | 伊藤 剛和   | 教育工学、情報科教育、情報教育    |                  |  |
|           |               |                  | 教授             | 小崎 誠二   | 教育 DX・AI           |                  |  |
|           |               |                  | 教授             | 竹村 謙司   | 教師教育               |                  |  |
|           |               |                  | 教授             | 古田 壮宏   | 数理情報学、教育工学         |                  |  |
|           |               | 教育発達支援コース        | 生徒指導・学校カウンセリング | 教授      | 市来 百合子**           | 芸術療法、学校臨床        |  |
|           |               |                  |                | 教授      | 河崎 智恵              | キャリア教育           |  |
|           |               |                  |                | 教授      | 出口 拓彦              | 教育社会心理学          |  |
|           |               |                  |                | 准教授     | 石井 僚               | 教育臨床心理学          |  |
|           |               |                  | 幼年教育           | 教授      | 廣瀬 聡弥              | 幼年教育             |  |
|           |               |                  |                | 准教授     | 大西 賢治              | 幼年心理             |  |
|           |               |                  |                | 准教授     | 藤崎 亜由子             | 保育内容             |  |
|           |               |                  |                | 准教授     | 厨子 健一              | 養護・福祉            |  |
|           |               |                  | インクルーシブ教育      | 教授      | 越野 和之              | 障害児教育学、インクルーシブ教育 |  |
|           |               |                  |                | 教授      | 全 有耳               | 障害児医学            |  |
|           |               |                  |                | 教授      | 中川 貴明*             | 障害児教育方法学         |  |
|           |               |                  |                | 准教授     | 富井 奈菜実             | 障害児の発達心理学        |  |
|           |               |                  |                | 准教授     | 林 喜子               | 障害児教育学、教育史       |  |
|           |               |                  |                |         |                    |                  |  |
|           | 教科教育コース       |                  | 言語・社会科学(国語)    | 准教授     | 明尾 香澄              | 国語科教育            |  |
|           |               |                  |                | 准教授     | 有馬 義貴              | 日本古典文学           |  |
|           |               |                  |                | 准教授     | 牧 千夏               | 日本近代文学           |  |
|           |               |                  |                | 専任講師    | 山田 実樹              | 日本語学             |  |
|           |               |                  | 言語・社会科学(社会科)   | 教授      | 今 正秀               | 日本古代・中世史         |  |
|           |               |                  |                | 教授      | 西田 慎               | ドイツ現代史           |  |
|           |               |                  |                | 教授      | 渡邊 伸一              | 社会学              |  |
|           |               |                  |                | 准教授     | 奥田 喜道              | 法律学              |  |
|           |               |                  |                | 准教授     | 梶尾 悠史              | 哲学・倫理学           |  |
|           |               |                  |                | 准教授     | 澁谷 友和              | 社会科教育学           |  |
|           |               |                  |                |         |                    |                  |  |
|           |               |                  |                |         |                    |                  |  |
|           |               |                  |                |         |                    |                  |  |
|           |               |                  |                |         |                    |                  |  |
|           |               |                  |                |         |                    |                  |  |
|           |               |                  |                |         |                    |                  |  |
|           |               |                  |                |         |                    |                  |  |
|           |               |                  |                |         |                    |                  |  |

| 専攻     | コース     | 領域                 | 職名  | 氏名             | 研究分野                    |
|--------|---------|--------------------|-----|----------------|-------------------------|
| 教職開発専攻 | 教科教育コース | 言語・社会科学(英語・小学校外国語) | 教授  | 佐藤 臨太郎         | 教室第2 言語習得               |
|        |         |                    | 教授  | 前田 康二          | 英語教育、教師教育               |
|        |         |                    | 教授  | 米倉 陽子          | 英語学（認知言語学、歴史言語学、文法化）    |
|        |         |                    | 准教授 | アムンルドトーマスマーティン | 言語学、外国語教育、談話分析          |
|        |         | 理数・生活科学(算数・数学)     | 教授  | 伊藤 直治          | 応用数学                    |
|        |         |                    | 教授  | 川崎 謙一郎         | 可変代数学                   |
|        |         |                    | 教授  | 近藤 裕           | 数学科教育                   |
|        |         |                    | 教授  | 高木 祥司◇         | 確率・統計                   |
|        |         |                    | 准教授 | 高橋 亮           | 解析学                     |
|        |         |                    | 准教授 | 舟橋 友香          | 数学科教育                   |
|        |         | 理数・生活科学(理科)        | 教授  | 石井 俊行*         | 理科教育                    |
|        |         |                    | 教授  | 石田 正樹          | 細胞生物学                   |
|        |         |                    | 教授  | 梶原 篤**         | 高分子化学                   |
|        |         |                    | 教授  | 辻野 亮           | 森林生態学・環境学               |
|        |         |                    | 教授  | 常田 琢           | 固体物理学                   |
|        |         |                    | 教授  | 中村 元彦          | 固体物理学                   |
|        |         |                    | 教授  | 信川 正順          | 天文学・宇宙物理学               |
|        |         |                    | 教授  | 藤井 智康          | 水圏環境科学・陸水物理学            |
|        |         |                    | 教授  | 和田 穰隆          | 火山地質学                   |
|        |         |                    | 准教授 | 宇治 広隆          | 生体関連物質化学                |
|        |         |                    | 准教授 | 小長谷 達郎         | 生理生態学・昆虫生態学             |
|        |         | 理数・生活科学(技術)        | 教授  | 藪 哲郎           | 電気工学                    |
|        |         |                    | 准教授 | 世良 啓太          | 技術科教育                   |
|        |         |                    | 准教授 | 古田 このみ         | 機械工学                    |
|        |         | 理数・生活科学(家庭科)       | 准教授 | 箕作 和彦          | 栽培学                     |
|        |         |                    | 教授  | 立松 麻衣子         | 家庭経営学                   |
|        |         |                    | 准教授 | 中川 愛           | 保育学                     |
|        |         |                    | 准教授 | 村上 睦美          | 家庭科教育                   |
|        |         | 芸術・保健体育(音楽)        | 教授  | 北條 美香代         | 作曲、編曲、創作教育              |
|        |         |                    | 教授  | 劉 麟玉           | 音楽科教育                   |
|        |         |                    | 准教授 | 鈴木 啓資          | 器楽（ピアノ）                 |
|        |         |                    | 准教授 | 水野 亜歴          | 声楽                      |
|        |         | 芸術・保健体育(美術)        | 教授  | 宇田 秀士          | 〈造形表現・図画工作・美術〉の題材と授業・保育 |
|        |         |                    | 教授  | 竹内 晋平          | 美術科教育                   |
|        |         |                    | 教授  | 原山 健一          | 工芸（陶芸）                  |
|        |         |                    | 准教授 | 樋口 健介          | 絵画、造形ワークショップ、こどもの造形表現   |
|        |         |                    | 准教授 | 萱 のり子          | 書道教育・書道理論               |
|        |         | 芸術・保健体育(書道)        | 教授  | 井上 邦子          | 体育学                     |
|        |         |                    | 教授  | 笠次 良爾          | 学校保健・スポーツ医学             |
|        |         | 芸術・保健体育(保健体育)      | 教授  | 高橋 豪仁          | 体育・スポーツ社会学              |
|        |         |                    | 教授  | 立 正伸           | 運動学                     |
|        |         |                    | 准教授 | 前川 真姫          | 運動生理学                   |
|        |         |                    | 准教授 | 宮尾 夏姫          | 体育科教育学                  |

◇研究指導を行わない教員です ※令和8年3月退職予定 \*\*令和9年3月退職予定

# 修士課程

## 目的

伝統文化やその教育、国際理解教育を持続的に発展させ、関連する課題を探究・解決し、多文化共生社会の実現やSDGsの達成に貢献できる人材を育成します。

## 3 ポリシー

### 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

修士課程において、また社会人として身に付けた資質・能力に加え、次のような人を求めます。

1. 日本や諸外国の文化・歴史・教育に関心があり、伝統文化や国際理解教育に関する研究を行い、その成果を生かして広く教育に貢献したいという目的を持つ人
2. 伝統文化の持続発展や国際理解教育に関わる基礎的な知識・技能を有する人
3. 研究成果を国内外で発信する意欲と、背景の異なる相手を意識したコミュニケーション能力を有する人

### 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

以下の趣旨に基づいて教育課程を体系的に編成し実施します。

#### （1）教育課程の編成の方針

1. 「共通コア科目」（必修）を1年次の初期に配置し、フィールドワークや講義を通して本専攻での学びの基盤となる知識及び意欲的に学び続ける力を育み、研究への動機づけと研究目的の明確化を図ります。
2. 「実践コア科目」（選択必修）を配置し、演習や実技を通して、伝統文化の発信（『伝統文化の継承と発信』）、芸術と生活との関わり（『書道の芸術性と実用性』）、異文化間コミュニケーションによる多文化共生社会創造（『多文化共生社会創造のための教育』）に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力を育みます。
3. 「専門深化科目」（選択必修）として、院生の課題解決に対応する専門的科目を配置します。ここでは伝統文化教育（書道を含む）に関する科目と国際理解教育に関する科目を開設し、伝統文化と国際理解を架橋させ知識・技能、思考力・判断力・表現力を育みます。また、理論と実践の往還を果たすため、各関係機関や教育機関でのフィールドワークやフィールドリサーチを含めて実施します。
4. 『課題研究』（必修）を配置し、ゼミとして「共通コア科目」「実践コア科目」「専門深化科目」での学びを統合し、研究力を育みます。
5. 修士論文作成・作品制作のための研究指導を行い、課題の探究と解決、及びその成果を発表できる資質・能力を育みます。

#### （2）教育課程における教育・学修方法に関する方針

本学教員は、持続可能な社会そして多文化共生社会の実現に貢献できる人材育成についての観点や内容を共有し、協働する体制で教育を進めます。また、留学生と日本人学生の共修の場として、学生それぞれのこれまでの経験・知識を活かし、互いに学び合う学修環境、支援体制の整備に努めます。

#### （3）学修成果の評価の方針

全授業科目において、本専攻の理念・目的及びカリキュラム・フレームワークに即した到達目標を定め、到達目標並びに評価の方法をシラバスによって学生と教員で共有し、成績評価を的確かつ厳正に行います。学位論文に関する審査項目を定め、複数名の審査委員を選出し、厳正に審査します。また、その成績評価結果や学生による授業評価結果を点検し、カリキュラムの評価・改善を図ることで教育の質の保証に努めます。

### 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

伝統文化の持続発展やその教育、国際理解教育に関わる研究を通し、修了までに以下の資質・能力を身に付けることを求めます。それらを獲得するとともに、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位（修士（教育学））を授与します。

1. 伝統文化の持続発展や国際理解教育の発展に貢献する高度な知識・技能、思考力・判断力・表現力
2. 伝統文化やその教育、国際理解教育に関わる課題を探究・解決し、それらについて専門性を深めることができる研究力
3. 教育の立場から多文化共生社会の実現やSDGsの達成に貢献できる力量

## 修士課程

### 専攻の概要と特色

「書道を含む伝統文化の継承と発展」、「国際理解教育に基づく多文化共生社会の創造」、「日本人学生と留学生の共修」を学びのキーワードとする専攻です。

※修士課程においては、教員免許状について、基礎となる一種免許状を所有していても、専修免許状を取得することができません。

※修士課程においては、夜間開講を行いません。

### 奈良を観ることが世界を観ることに、そして、奈良を知ることが世界を知ること、につながる。

## フィールドワーク

「共通コア科目」「実践コア科目」「専門深化科目」に共通して、博物館、研究所、学校等、奈良の地でこそできるフィールドワーク・フィールドリサーチが多く含まれます。

例えば、「**世界の中の奈良 ―文化を知り・つなぎ・伝える―**」では、

|             |                                   |
|-------------|-----------------------------------|
| 墨の資料館       | 春日大社                              |
| 奈良国立博物館     | 奈良市杉岡華邨書道美術館                      |
| 奈良県立国際高等学校  | 郡山城跡・柳沢文庫                         |
| 天理市立黒塚古墳展示館 | 長岳寺                               |
| 地域の日本語教室    | 外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援。子どもたち同士の交流の場 |

等において、フィールドワーク・フィールドリサーチを実施予定です。



(株) 墨連堂における見学風景



長岳寺見学風景



外国にルーツを持つ子ども達への学習支援・交流の場の見学



学生によるプレゼンテーションの様子

### 科目の履修方法と修了要件・学位

教育課程 30 単位  
学位論文等の審査及び最終試験

修士課程修了  
修士（教育学）の学位授与



### 修士論文題目例

- 仮名書道創作における仮名文字の使い分けについて
- 小学校社会科における「仮名の書」から考える仮名書道教材の一提案
- 傳山による王羲之書法の受容に関する研究
- 日中比較による日本「書写」と中国「書法練習指導」に関する研究
- 秋篠寺伝梵天立像の研究
- 詩吟が果たす教育的役割の研究
- 地域日本語教育に対する意識の形成
- 日本の小学校における複言語・複文化・言語意識教育の可能性
- 遊ぶ子どもの創造的な姿

## 開講科目一覽

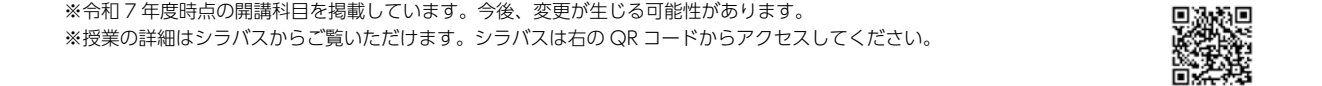
修士課程のカリキュラムは次のとおりです。※

修了要件は、共通コア科目 8 単位、実践コア科目と専門深化科目を併せて 18 単位以上（実践コア科目 2 単位以上、専門深化科目 14 単位以上を含める）、課題研究 4 単位の計 30 単位以上の修得です。

| 科目区分   |          | 開講科目                                                     |
|--------|----------|----------------------------------------------------------|
| 共通コア科目 |          | 世界の中の奈良 ―文化を知り・つなぎ・伝える―<br>グローバル・シティズンシップ教育論<br>SDGs と教育 |
| 実践コア科目 |          | 伝統文化の継承と発信<br>書道の芸術性と実用性<br>多文化共生社会創造のための教育              |
| 専門深化科目 | 伝統文化教育領域 | 美術工芸文化財学Ⅰ（美術作品の「物語」）                                     |
|        |          | 美術工芸文化財学Ⅱ（美術作品との対話）                                      |
|        |          | 文化財技法Ⅰ（文化財の保存と技法の継承）                                     |
|        |          | 文化財技法Ⅱ（文化財技法の追体験）                                        |
|        |          | 文化財科学Ⅰ（文化財科学の方法）                                         |
|        |          | 文化財科学Ⅱ（文化財科学の実践）                                         |
|        |          | 漢字書法演習（臨書から創作への展開）                                       |
|        |          | 仮名書法演習（臨書から創作への展開）                                       |
|        |          | 書道芸術研究（書の背景）                                             |
|        |          | 書道文化研究（文字とは何か）                                           |
|        | 国際理解教育領域 | 言語文化研究Ⅰ（日本語教育の原理）                                        |
|        |          | 言語文化研究Ⅱ（日本語教育の実践）                                        |
|        |          | 言語文化研究Ⅲ（漢文学とは何か）                                         |
|        |          | 言語文化研究Ⅳ（奈良ゆかりの日本漢文）                                      |
|        |          | 言語文化研究Ⅴ（身近な言葉）                                           |
|        |          | 言語文化研究Ⅵ（言語構造の探究）                                         |
|        |          | 国際理解教育Ⅰ（シティズンシップ教育の原理）                                   |
|        |          | 国際理解教育Ⅱ（複言語・複文化教育の原理）                                    |
|        |          | 国際理解教育Ⅲ（シティズンシップ教育の実践）                                   |
|        |          | 国際理解教育Ⅳ（複言語・複文化教育の実践）                                    |
| 課題研究   |          | 課題研究                                                     |

※令和7年度時点の開講科目を掲載しています。今後、変更が生じる可能性があります。

※授業の詳細はシラバスからご覧いただけます。シラバスは右のQRコードからアクセスしてください。

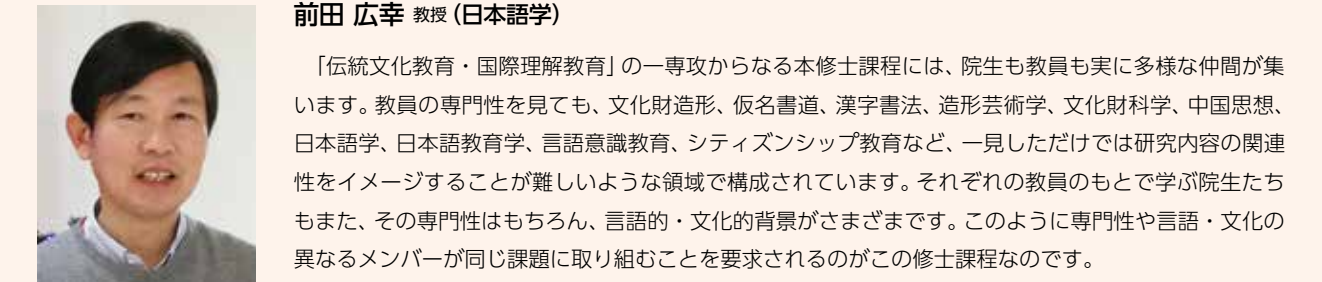


## 専任教員の研究分野

| 専 攻                 | 専 修                        | 職 名 | 氏 名     | 研究分野             |
|---------------------|----------------------------|-----|---------|------------------|
| 伝統文化教育・<br>国際理解教育専攻 | 伝統文化（書道を含む）<br>教育・国際理解教育専修 | 准教授 | 池田 藍子   | 文化財造形            |
|                     |                            | 准教授 | 北山 聡佳   | 仮名書道、仮名に関する教育    |
|                     |                            | 准教授 | 西村 大輔   | 漢字書法、書写書道教育      |
|                     |                            | 教 授 | 山岸 公基*  | 造形芸術学、日本・東洋仏教美術史 |
|                     |                            | 教 授 | 青木 智史   | 文化財科学、博物館学       |
|                     |                            | 教 授 | 橋本 昭典   | 中国思想、日本漢文学       |
|                     |                            | 教 授 | 前田 広幸** | 日本語学             |
|                     |                            | 教 授 | 和泉元 千春  | 日本語教育学           |
|                     |                            | 教 授 | 吉村 雅仁** | 言語意識教育、複言語教育     |
|                     |                            | 教 授 | 橋崎 頼子   | シティズンシップ教育       |

※令和8年3月退職予定 ※※令和9年3月退職予定

## 修士課程 担当教員からのメッセージ



 前田 広幸 教授 (日本語学)

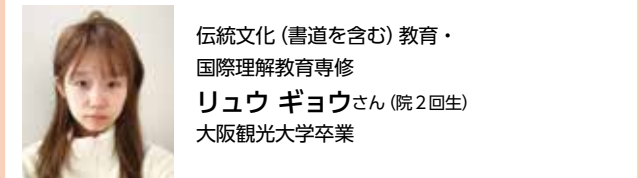


「伝統文化教育・国際理解教育」の一専攻からなる本修士課程には、院生も教員も実に多様な仲間が集います。教員の専門性を見ても、文化財造形、仮名書道、漢字書法、造形芸術学、文化財科学、中国思想、日本語学、日本語教育学、言語意識教育、シティズンシップ教育など、一見しただけでは研究内容の関連性をイメージすることが難しいような領域で構成されています。それぞれの教員のもとで学ぶ院生たちもまた、その専門性はもちろん、言語的・文化的背景がさまざまです。このように専門性や言語・文化の異なるメンバーが同じ課題に取り組むことを要求されるのがこの修士課程なのです。

では、その修士課程ではどのような学びができるのでしょうか。まず、伝統文化を理解・継承・発展させるための、「多文化共生社会」や「多様性の包摂」を実現させるための疑似体験が可能です。ただし、現実とはそれほど簡単ではありません。伝統と現代の問題の解決には見解の相違があり、背景の異なる他者との交流には誤解がともない、結果、相互不信だけが残ることもあります。しかし、完全解は無理でも、よりよい解を見いだすことはできます。わたしたちの修士課程ではこのようなよりよい解を見いだすための学びが可能です。今まで出会うことのなかった新しい領域から刺激を受け、自身の研究テーマに幅や深みを与える、みなさんもこのような刺激的・体験的な学びに挑戦してみませんか。

## 修士課程 大学院生からのメッセージ

在学生の声




 伝統文化（書道を含む）教育・  
 国際理解教育専修  
**リュウ ギョウ**さん（院2回生）  
 大阪観光大学卒業

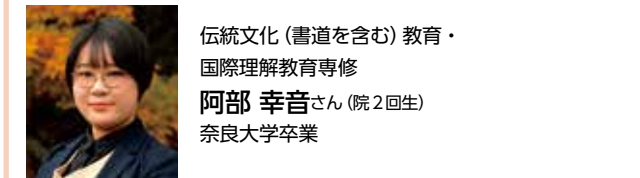
私は伝統文化・国際理解教育専攻の中で、日本語教育を専門に学んでいます。大学院2回生で、出身は中国です。中国の短大にいる時、観光日本語学科に通っていて、交換留学生として日本に来ました。日本にいる学習や生活の中で、日本語力の大切さと文化の多様性を認識し、日本の伝統文化と日本語教育に深い興味を持っています。日本で日本語教育をもっと深く学びたいと思ったとき、奈良教育大学を知りました。

奈良教育大学を選んだ理由は、奈良は日本の歴史と文化の中心地であり、長い歴史のなかで、豊富な文化財、伝統文化、文化遺産などが多く存在するからです。奈良は古くからシルクロードを通じて中国、朝鮮半島、インドなどと交流し、多くの文化が融合してきました。今では人気の観光地です。そのため、国際的な視野を広げるチャンスが多い場所だと思います。

学部研究生として一年間過ごしましたが、その前から日本語教育に特に興味を持っていて、日本語教育の研究室に所属しました。学部生や様々な国からの留学生との交流があり、授業やイベントと一緒に参加したり、日本の小学校で多国籍の学生や地元の小学生との交流活動をしたりしたことを通じて、日本語教育の実践的な側面を体験しました。とても楽しく、視野が広がりました。

奈良教育大学では、専門的な勉強に加えて、地域の文化資源を活用した学びも重視されています。私は奈良教育大学で、日本語教育を専門に学びながら、国際的な視野での学びを深めています。この大学では、専門的な勉強ができるだけでなく、奈良という歴史と文化の中心地ならではの環境で、地元の伝統文化を体験することができます。

在学生の声




 伝統文化（書道を含む）教育・  
 国際理解教育専修  
**阿部 幸音**さん(院2回生)  
 奈良大学卒業

私は、他大学から奈良教育大学大学院の修士課程に進学しました。他大学に在学時から博物館学の研究をしており、大学院への進学を考えていました。在学していた大学の先生の薦めもあり、文化遺産教育や博物館教育の実績のある本学の修士課程に進学しました。

本学の修士課程の大きな特徴は2つあります。

1つ目は、様々な分野について幅広く学ぶことができることです。

修士課程では、文化遺産、書道、国際理解教育、日本語学、漢文学といった様々な分野を学ぶことができます。これまで触れてこなかった書道や国際理解教育などの分野について学ぶことは刺激的でとても楽しいです。それだけでなく、自身の研究分野である博物館学とは、一見すると、関係がなさそうな分野の知識が研究の大きなヒントになることもあります。

2つ目は、様々な専門性をもつ人たちと関わることができることです。

修士課程の学生だけではなく、教職大学院の学生とも共に学ぶことができます。また、「世界の中の奈良—文化を知り・つなぎ・伝える—」という授業においては、学外の人たちとも深く関わるすることができます。

様々な学問分野について学び、人と関わることは、新しい発見をしたり、視野を広げたりすることができます。当然のことながら、学ぶ中で不安や迷いが生じることもあります。それらの経験は研究を進めることだけではなく、1人の人間としての大きな成長につながることでできると思います。

今後も、幅広く様々な分野について学び、多様な専門性を持つ人々と関わり合いながら研究を進めていきたいと思っています。

## 専門職学位課程（教職大学院）

### 令和 8 年度入試日程

| 募集区分  | 試験区分                              | 出願期間                    | 試験日          |
|-------|-----------------------------------|-------------------------|--------------|
| 7月募集  | 一般選抜（現職教員特例・社会人特例を含む）             | 令和7年6月20日（金）～6月26日（木）   | 令和7年7月27日（日） |
| 11月募集 | 一般選抜（現職教員特例・社会人特例・教員採用試験合格者特例を含む） | 令和7年10月10日（金）～10月17日（金） | 令和7年11月9日（日） |
|       | 特別選抜（学外推薦・連携大学推薦・学内推薦）            |                         |              |
| 2月募集  | 一般選抜（現職教員特例・社会人特例を含む）             | 令和7年12月5日（金）～12月11日（木）  | 令和8年2月15日（日） |
|       | 特別選抜（学内推薦）                        | 令和8年1月22日（木）～1月23日（金）   |              |

### 選抜方法

#### ●一般選抜

提出書類の審査と選抜ごとに指定した学力検査〔筆記試験【課程共通問題（小論文）】、筆記試験【コース・領域・教科対応の選択問題】、口述試験【実技等を含む】〕によって行います。なお、現職教員特例、社会人特例、教員採用試験合格者特例では、口述試験【実技等を含む】のみを行います。

#### ●特別選抜

学外推薦では、提出書類の審査と学力検査〔筆記試験【課程共通問題（小論文）】もしくは筆記試験【コース・領域・教科対応の選択問題】のどちらか一方と、口述試験【実技等を含む】〕を行います。筆記試験の実施方法は、コース・領域・教科により異なります。

連携大学推薦及び学内推薦では、提出書類の審査と口述試験【実技等を含む】によって行います。

## 修士課程

### 令和 8 年度入試日程

| 募集区分 | 試験区分                                         | 出願期間                   | 試験日          |
|------|----------------------------------------------|------------------------|--------------|
| 9月募集 | 一般選抜（実技重視型・筆記重視型）<br>外国人留学生特別選抜（実技重視型・筆記重視型） | 令和7年7月25日（金）～7月31日（木）  | 令和7年9月6日（土）  |
| 2月募集 | 一般選抜（実技重視型・筆記重視型）<br>外国人留学生特別選抜（実技重視型・筆記重視型） | 令和7年12月5日（金）～12月11日（木） | 令和8年2月14日（土） |

### 選抜方法

#### ●一般選抜

筆記試験（小論文）、口述試験（実技重視型のみ実技を含む）、成績証明書、研究計画概要、先行研究を踏まえた研究計画書（筆記重視型のみ）及び当日の持参作品（実技重視型のみ）の内容を総合して行います。筆記試験（小論文）として専修共通課題及び専門分野からの課題を実施します。

#### ●特別選抜

筆記試験（小論文）、口述試験（実技重視型のみ実技を含む）、成績証明書、研究計画概要、先行研究を踏まえた研究計画書（筆記重視型のみ）及び当日の持参作品（実技重視型のみ）の内容を総合して行います。筆記試験（小論文）として専門分野からの課題を実施します。

#### 【出願にあたっての注意事項】

志願者と本学大学院とのミスマッチを防ぐなどの観点から、出願の前に、大学院入学後の研究内容について、指導を希望する教員と個別面談をお願いしています。専任教員の研究分野や本学ホームページの教員一覧の情報を参考に、研究指導を希望する教員に必ず事前に相談してください。なお、願書に事前相談を行った教員名を記載いただきます。



# 奈良教育大学 ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言

奈良教育大学は、「奈良教育大学の3つの柱」として、「人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の追究」「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」「教員養成と教員研修の融合」を掲げています。とりわけ、本学は附属学校園を含めてユネスコスクールに認定されており、環境、文化、平和、人権等、「持続可能な開発のための教育」（ESD）に関わるさまざまな取組を展開し、教育の面からSDGsの達成を目指しています。

ESDの基盤となる人権は、1948年の世界人権宣言により国際連合においてその基本的な理念が位置づけられ、世界の誰もが有する「普遍性」とともに、ジェンダー、人種、民族、宗教、障がい、言語・文化などに関わる「多様性」を大切にしています。「多様性」は、このように、個々人の尊厳と人権の保障を踏まえた、持続可能な社会の基本的な理念を示すものとなっています。それは、それぞれの差異を踏まえつつ、平等・公平・公正な対応を求める理念でもあります。

「多様性」については、理念を理解することに留まらず、組織を構成するすべての人々によって、それぞれの差異や異なる価値観を認めるための「行動」が伴わなくてはなりません。また、教育大学においては、それを実現していくための「教育」も重要です。そこで、奈良教育大学では、「多様性」の理解とその上に立つ行動及びそのための教育を推進することとし、それを奈良教育大学における「ダイバーシティの推進」と定義します。

そして、奈良教育大学は、そこに関わる多様な人々を誰一人取り残すことなく包み込み、異なる経験・能力・考え方などの結集や融合によって、新たな知や価値を創造していく組織であらねばなりません。その包摂性を、奈良教育大学における「インクルージョン」と定義します。

以上により、奈良教育大学は、ダイバーシティ・インクルージョンを推進し、大学構成員としての学生、教職員、附属学校園における幼児・児童・生徒及びその保護者全員が、安心して集い、学び、研究し、働き、参画できる場とします。また、その推進に貢献できる教員の養成・研修を行います。そこで、ここに「奈良教育大学 ダイバーシティ・インクルージョン推進宣言」を掲げ、以下に取り組むこととします。

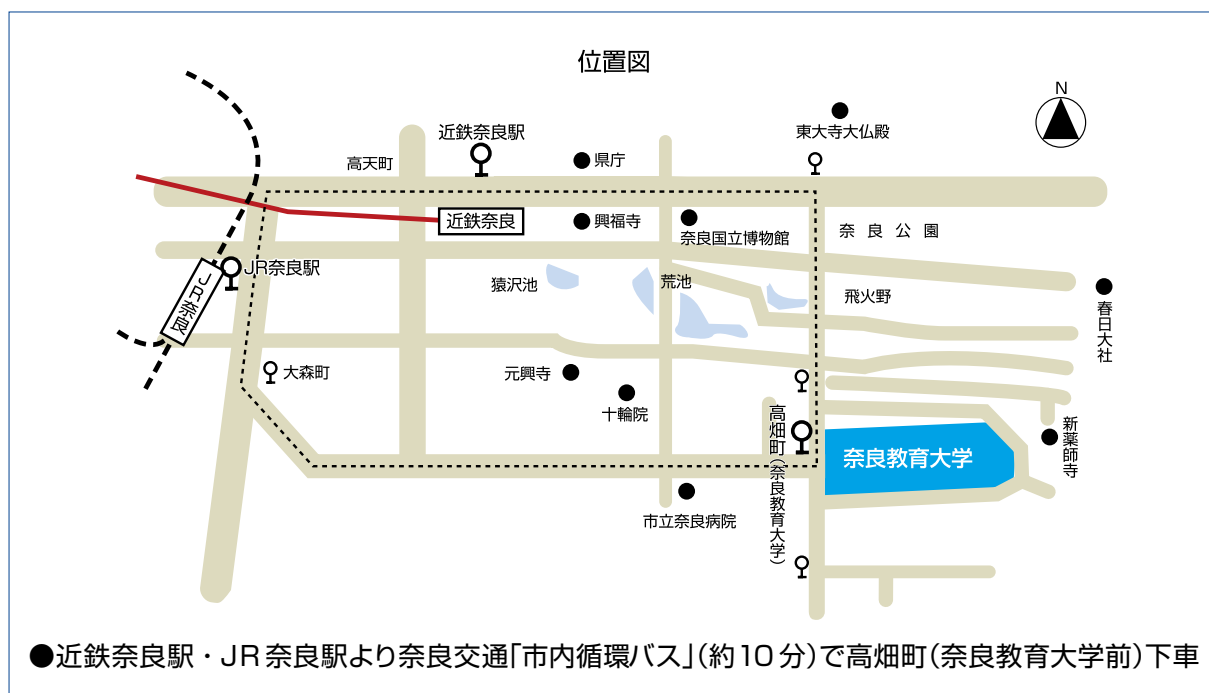
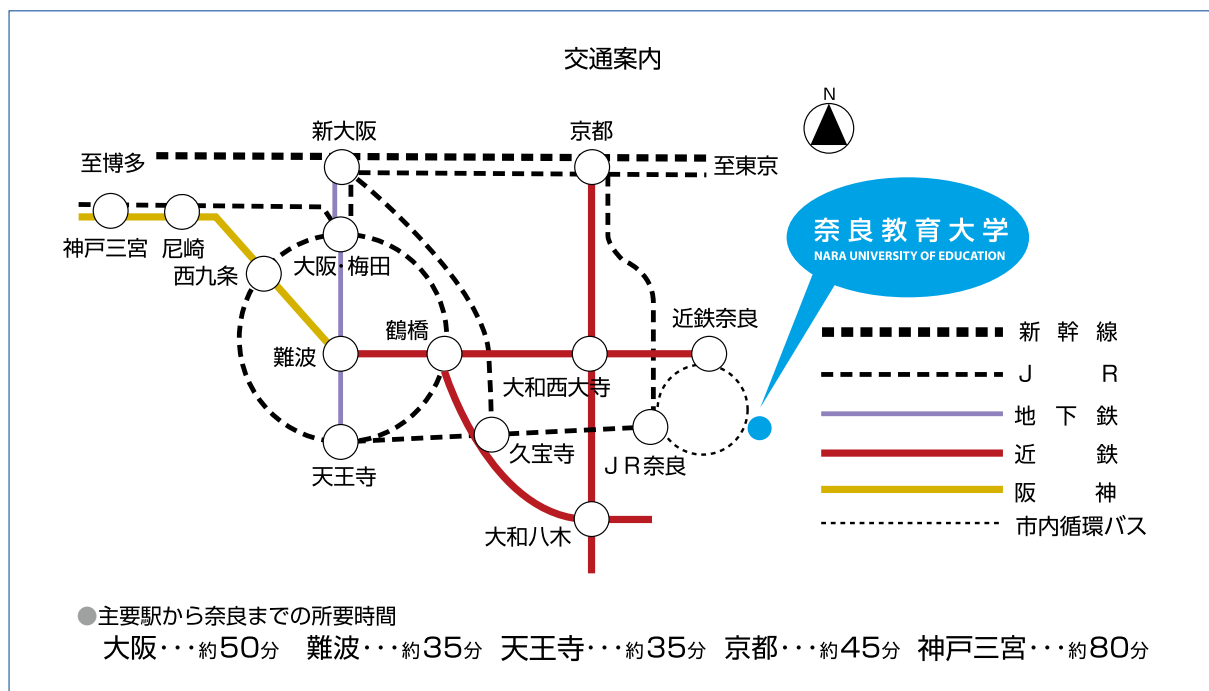
いかなるハラスメント・人権侵害も容認しません。すべての大学構成員を誰一人取り残すことなく包み込み、互いにそれぞれの多様性をありのままに認め合い、尊重し合う大学であることを共通の価値とします。

その価値の共有のため、意識の啓発に努め、相互の対話を大切にします。

多様な背景をもつ大学構成員が、奈良教育大学で学び、研究し、働き、参画する上で必要な環境の改善に努めます。

「ダイバーシティ・インクルージョン推進」に関する知見と洞察を、「奈良教育大学の3つの柱」の実現と、教員の養成・研修に関する内容・方法の樹立に生かし、ともに実践していきます。

2021 年（令和 3 年）4 月  
奈良教育大学



奈良教育大学  
キャンパスマップ

大学院生インタビュー  
「奈良教育大学大学院に進学した理由」「普段の院生生活」などについてお伝えします！

大学院教育学研究科に関するよくあるご質問・お問合わせ

大学院入試説明会  
申し込みはこちら



奈良教育大学

奈良教育大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



〒630-8528 奈良市高畑町  
 入試課 0742-27-9126  
 編集・発行／奈良教育大学 入試室  
<https://www.nara-edu.ac.jp/>